

札幌市の河川の特徴としては、大きく下記の3つがあげられます。

札幌市の河川の特徴

- ①上流・中流・下流の全ての条件がある
- ②規模の小さな河川が多い
- ③都市を流れる河川である

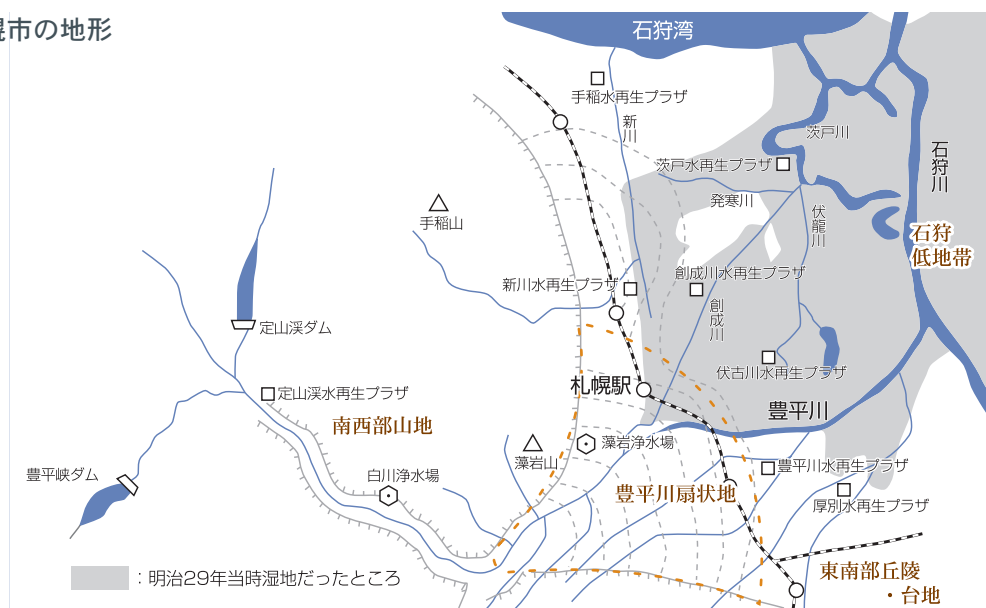
①上流・中流・下流の全ての条件がある

札幌市は、石狩平野の南西部に位置し、東西42.3km、南北45.4km、面積1,121.12km²の市域を有し、その約6割(約700km²)を緑豊かな森林が占めています。その地形は、市内を貫流する豊平川によって形成された「豊平川扇状地」、長い間の海進海退により古石狩湾が隆起してできた「石狩低地帯」、火山岩台地で広大な森林山岳地帯である「南西部山地」、火山灰性の台地と山岳地形を有する「東南部丘陵・台地」に分けることができます。

このような地形条件により、札幌市の河川には、山地を流れる上流、扇状地を流れる中流、低湿地を流れる下流の全ての条件の河川があります。

札幌市内には、592本の河川が流れており、その総延長は1,192kmとなっています(平成20年4月1日現在)。水系[※]は、一級河川石狩川水系、二級河川新川水系及び星置川水系の3つに区分され、このうち、石狩川水系は豊平川流域と伏籠川流域をあわせて960km²に及び、市域の約86%を占めています。

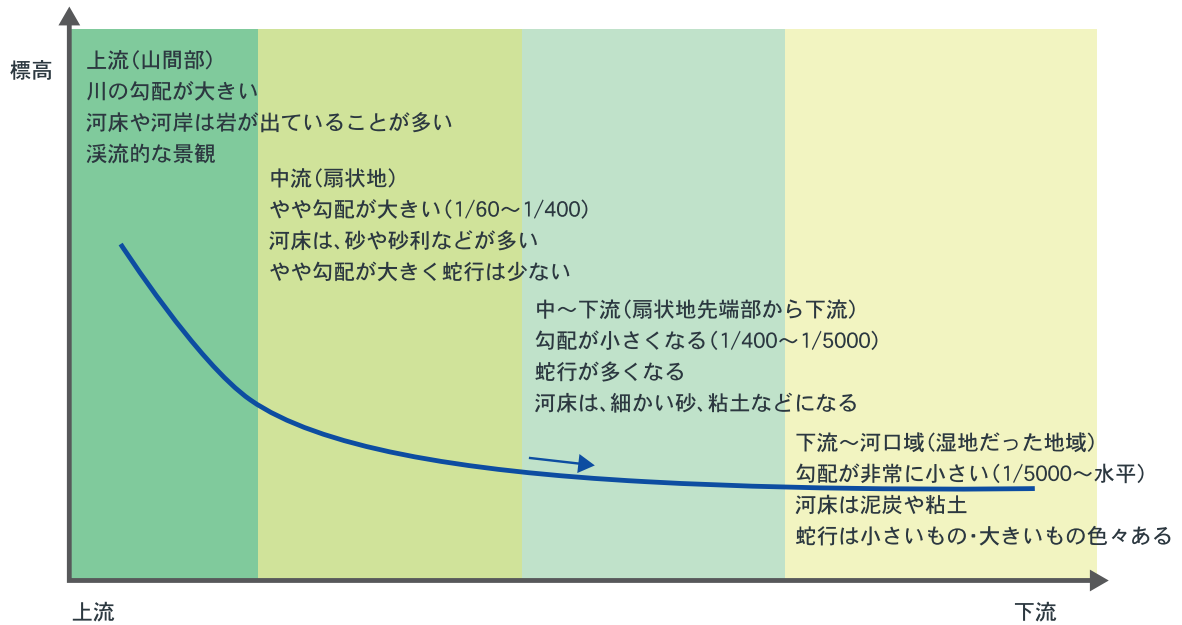
■札幌市の地形



※ 水系

水源から河口まで、水のつながっている、川の本流、支流、派流などの集まりを総称して「水系」と呼びます。

■上流から下流の川の特徴



②規模の小さな河川が多い

札幌市の河川は、主に石狩川水系および新川水系の二次、三次支川※であり、流域面積も小さく、河川延長も短い小さな河川がほとんどです。

また、川幅も狭く、普段の水量が少ない河川も多く見られます。



■西野々沢川(南区)



■6線幹道排水(白石区)

※ 二次、三次支川

本川に直接合流する河川を「一次支川」、一次支川に合流する河川を「二次支川」、二次支川に合流する河川を「三次支川」と呼びます。



③都市を流れる河川である

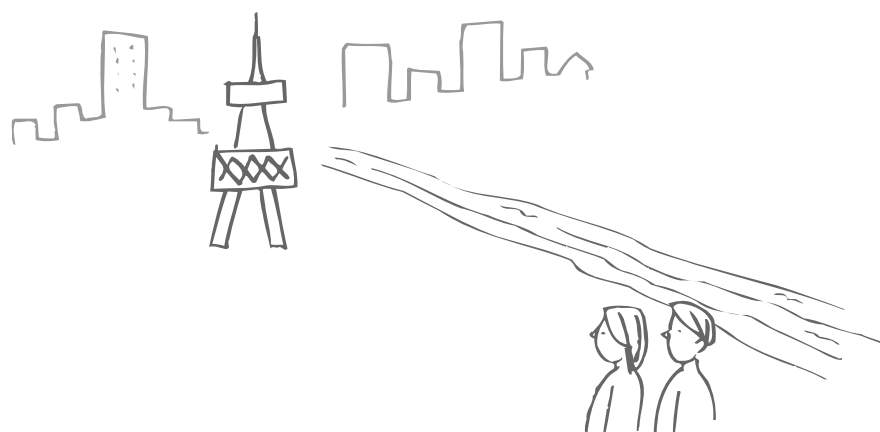
札幌市の河川は、都市化の進展により、人口集積の高い商業地、住宅地等を流れるようになりました。また、暗きょ化[※]されている区間もあります。



■伏籠川(東区)



■創成川(北区・東区)



※ 暗きょ化

川の敷地を道路などに利用するため、川にふたを閉めたり、管などを地中に埋設したりして、日常生活では確認することができない地下に流すこと。